AMCoR
Asahikawa Medical University Repository http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/

看護研究集録 (2012.09) 平成22年度:170.

外科フットケアの充実
―チーム視点からの脱却―

山本絵莉奈、高橋亜衣、阿部由佳、澤田浩美、大塚ゆきの、田端彩那、清水由美子、河地範子、内田　恒、稲葉雅史、笹嶋唯博

外科フットケアの充実―チーム視点からの脱却―

旭川医科大学病院、旭川医科大学外科学講座　○山本絵莉奈、高橋　亜衣、阿部　由佳、澤田　浩美
大塚ゆきの、田端　彩那、清水由美子、河地　範子
内田　　恒、稲葉　雅史、笹嶋　唯博

【はじめに】

患者の QOL 向上と医療の効率化を目的にフットケアチームを立ち上げ、3 年が経過した。メンバーは医師と看護師数名で構成し、医師は手術創や炎症の強い創の処置を行い、看護師は、安定期の創断端部や、足部潰瘍に対して医師の指示のもと処置を実施してきた。

【目的】

年々増加する下肢動脈閉塞症例や重症虚血症例に、少人数のチームとしての対応では限界を感じている現状がある。そこで今年度から、病棟スタッフ全員がチームの一員となれるよう検討してきたので具体的方法とその効果を報告する。

【方法】

病棟スタッフ全員を対象に、フットケアチーム主催の学習会や技術指導を行い、日常生活指導に明らかに不足している点についてパンフレットの充実を図った。また、病棟全体のアセスメント能力の向上や創傷管理のスキルアップを図った。

【結果】

時間が制限された回診と異なり、患者と時間的にゆとりをもって関わることができるため、フットケアという時間を共有しながら、患者のライフスタイルや価値観、病気との向き合い方などを知り、退院後の患者の QOL を視野に入れた個人指導が可能となった。また、作成したパンフレットは、患者自身の足についていっそう関心をもたらし、今までのライフスタイルを振り返ることで、継続的なフットケアの必要性についての理解を容易にできた。

【結論】

フットケアをチームからスタッフ全員に移行し取り組むことは、個々の創傷アセスメント能力を養成し、病棟全体の外科フットケアの質向上につながった。